

## 山梨県峡東地域

平成28年度  
認定

### 峡東地域の扇状地に適応した 果樹農業システム

峡東地域は、養分や保水力に乏しく稲作には適さない立地条件であったことから、ブドウ、モモ、スモモ、アウトウ、カキなどの多品目の果樹栽培が普及し、既に江戸時代には果樹の産地として知られていました。中でもブドウは、平安時代から栽培されていたとも言われ、湿潤で降水量の多い日本の気候に適応するため、約400年前に棚に枝を這わせる「棚式栽培」という独自の技術が考案され、現在その技術は日本各地に普及しています。

また、こうした果樹の歴史を背景に、品種の育成や選抜が行われ、我が国最古のブドウ品種である「甲州」をはじめ、現在では300品種を超える多様な遺伝資源が受け継がれています。果樹農業は、ワイン醸造などの果実加工や約120年前に始まったとされる観光果実園とともに発展し、様々な文化・祭事とともに世界に誇る特色ある地域を形成しています。



1



2



3

1 モモやスモモの花が咲き乱れる春の風景 2 我が国固有品種「甲州」ブドウ  
3 峡東地域の「モモ」



1



2



3

1 山間地に階段状に広がるわさび田 2 わさび田周辺に生息するハコネサンショウウオ  
3 地域内の代表的な品種「真妻」

## 静岡県わさび栽培地域

平成28年度  
認定

### 静岡水わさびの伝統栽培

#### 一発祥の地が伝える人とわさびの歴史一

わさびは日本列島で独自の進化を遂げた固有種であり、自生する野生のわさびが日本各地で見られます。当地域では、約400年前の江戸時代初期に世界で初めて栽培が始まり、長い歴史の中で地域に適した数多くの品種・系統と栽培技術が生み出されてきました。農作物の生産が難しい森林に囲まれた環境の中で、山の傾斜に沿って沢を階段状に開墾してわさび田を作り、肥料を極力使わず豊富な湧水に含まれる養分で高品質なわさびを生産する技術が発展し、特に、明治25年頃に開発された「畳石式」と称される栽培方式は、生産量を飛躍的に向上させました。

わさび田は、わさびを強い日差しから守るために植栽されたヤマハンノキと相まって、独特の景観を織り成しています。また、緩やかな水の流れは、ハコネサンショウウオなどの希少な生物に生息環境を提供しています。

## 三重県鳥羽・志摩地域

平成28年度  
認定

### 鳥羽・志摩の海女漁業と真珠養殖業

#### ー持続的漁業を実現する里海システムー

当地域は、リアス海岸を特徴とした豊かな自然と美しい景観が残されており、陸域からの栄養により育まれた豊かな藻場では、約1200年以上前から、素潜りでアワビやサザエなどの水産物を漁獲する海女漁が営まれてきました。また、約1000年以上前から天然真珠が採取されており、1893年には水中作業を担う海女の存在を背景に、世界で初めて真珠養殖に成功、現在その技術は世界各地に普及しています。

資源保護や環境保全のため、海女は厳しい漁獲制限などを行い、真珠養殖業者は養殖筏の台数を管理し、地域では干潟や藻場の保全活動に取り組んでいます。

環境に配慮しつつ生態系を持続可能な形で利用することで、自然と人間との共存を実現する「里海システム」が受け継がれています。



1



2



3

1 志摩半島 英虞湾の風景（写真提供：一般財団法人伊勢志摩国立公園協会）

2 海女漁：伝統的な素潜り漁により海からの恵みを漁獲

3 真珠：豊かな自然と人間の英知の結晶



1



2



3

1 ヒノキ植林地と熊野灘 2 FSC認証 尾鷲ヒノキの丸太

3 伊勢志摩サミットで使用された尾鷲ヒノキの円卓（出典：外務省ホームページ）

## 三重県尾鷲市、紀北町

平成28年度  
認定

### 急峻な地形と日本有数の 多雨が生み出す尾鷲ヒノキ林業

三重県尾鷲・紀北地域は大台山系に連なる急峻な山岳地帯であり、平地が極めて少ないため、稲作に向かず古くから林業が発達し、1630年前後には人工造林が始まりました。地形が急峻なうえ、年平均3,800mmを超える多雨により土壌が発達しにくいことから、痩せ地に耐えるヒノキへの樹種転換が嘉永年間（1850年頃）以降に行われ、人工林の9割をヒノキが占める全国でも例のないヒノキ造林地帯を形成しています。

痩せ地で生長が遅いという不利な条件を逆手に取り、苗木を密植し間伐を繰り返すことで、緻密で均一な年輪幅を形成し、強度が高く木目が美しいヒノキを生産する独自の技術が発達しました。こうして造成されたヒノキ林は、リアス海岸に面した急斜面や世界遺産「熊野古道」沿線に広がり、地域固有の景観を成しています。